

あゆみ通信

VOL. 146
 あゆみの会(真宗大谷
 派大阪教区第2組同朋
 の会推員連絡協議会)
 会長 細川 克彦
 広報 本持 喜康

無量寿の バトンタッチ

青木新門(作家・詩人)

私は、親鸞聖人のみ教えに出会う幸運に恵まれました。納棺夫になってよかったと心から思うばかりです。親鸞聖人は、正しく仏教を伝えた「師主知識」の大切さを忘れませんでした。如来大悲に遇えたことと師主知識に遇えたことの二つをきちんと押さえて、「如来大悲の恩徳は、身を粉にしても報ずべし、師主知識の音読もほねをくだきても謝すべし」(「正像末和讃」)と、心からの感謝の和讃をしておられます。

私は親鸞聖人の「教行信証」を始めて読み終えた時、不思議に思ったことがありました。聖人自身のおことばがほとんどないことに気づいたのです。その九割ほどが「大無量寿経」や「涅槃経」などの仏典からの引用と、七高僧の真言の引用なのです。残る一割ほどの聖人のお言葉は、そのほとんどが懺悔と讃嘆でした。

哲学者・三木清は、「親鸞の文章にはいたるところ懺悔がある。同時にそこにはいたるところに讃嘆がある。懺悔と讃嘆と、讃嘆と懺悔と、常に相応じている。単なる懺悔、讃嘆を伴わない懺悔は真の懺悔ではない。懺悔は讃嘆に移り、讃嘆は懺悔に移る、そこに宗教的内面性がある」(「三木清全集」)と書き残しておられます。私は、この三木清の言葉に共感して以来、いろいろな親鸞聖人に関する書物を読むたびに、讃嘆も懺悔もないまま、「私はこう思う、私はこのように解釈する」と自己主張する書物のなんと多いのだろうと思ったことでした。

私も以前は、そう思っていたのです。なぜなら、自分の特色を出すことが独創的な作品や論文を作るうえで大切なことだと思っていたからです。ところが、親鸞聖人の「教行信証」には自己主張が皆無なのです。そのことは、仏典であれ、七高僧のおことばであれ、如来が発した言葉と思われる真言のみを厳選して引用されているからにほかなりません。如来の真言に対して「私はこう思う」と付け加えることは疑を挟むことになるのです。親鸞聖人が選ばれた真言をただ信じればよいのです。(「いのちのバトンタッチ」東本願寺出版)

聞法会開幕

日時 4月21日(水) 午後2時
 会場 稱念寺(天王寺区夕陽丘町)
 講師 大橋恵真先生



(18組 遠慶寺住職)
 参加費 500円
 体調のすぐれない方は無理されないでください。

第2組門徒会 新体制でスタート

各寺院から門徒会員の選定を受けて、今回はコロナ感染を考慮して、12日に組長・副組長と正副門徒会長協議の結果を、会員の承認いただきました。(以下、敬称略)

会長 中嶋ひろみ(光照寺) 再任。副会長 吉田雄彦(法山寺) 再任。同 本持喜康(即應寺) 再任【会計・事務局兼務】。常任委員 浪花博(法山寺) 再任、同 横井淳(行圓寺) 再任、石川武(紹隆寺) 新任。(敬称略) 任期は2021年3月10日から2024年3月9日です。

あゆみの会も門徒会と共に第2組の仏事を進めて参ります。合同研修会は、6月開催予定です。

親鸞のことば 信じることを考える 涅槃の真因はただ信心を持つてす(教行信証)

人をこの迷いの世界から解放つものは、阿弥陀さまの本願を信ずる心である、と親鸞は言います。では、信じるとはどういうことなのでしょう。

私たちが「あなたを信じる」という時、そこには自分にとって都合よく相手を信じたいという願いが潜んではいないでしょうか。そんな思いを秘めた「信じる」は、真実の信ではないのです。ただ、真実の信ではないとわかったとしても、人は自分の都合でしか信じることができない生き物です。そんな矛盾の中で、阿弥陀さまを信じることを問い続けるのが、さとりの道の歩みと言えるでしょう。

(名古屋別院監修「人生を照らす親鸞の言葉」リベラル社刊)

コロナは禍か？

昨年来、再三にわたりニュースでも、自分は「コロナ禍」と書いてきました。一樂真先生(大谷大学教授)の法話で、それが、世間的理解だと気づかされました。先生は「仏教でいえば『禍』だという風には、一方的には決めつけられない」「そもそも我々はこういう世界の中に初めからあったということ。これを改めて突き付けられているということである」と言われます。また「親鸞聖人のお手紙に「『生死無常のことわり』つまり、いつ何時、いのちは終わるかわからないということ、これは道理・いのちの事実であって、そもそも如来が初めから教えてくださっています」「だから病気になったり、災害に遭ったりして亡くなって、こんなはずではなかったという風に驚きますが、実は生まれたということ、生きているということ自体がそういういのちの事実を持っておるのですよ」と。先生は「如来のまなこを持ちましょう」と言われました。あらためて、肝に銘じます。(本)

紙上法話 大無量寿経の仏道② 延塚知道先生



生活を挙げて、ずうっと守ってきたんやと思う。やっぱり命がけで、大地に埋もれるようにして守ってきたんやと思う。

そして、そういう人たちが有名になって、みなから何か言われるかっていったら、そんなこと何もないんや。念仏者のじいちゃん、ばあちゃんとして生きて、じいちゃんとかばあちゃんのまま死んでいった。

そやけど、ずっと大地の中に染み込むように、お念仏を伝えてきとるんやね。そういう仏教を説いているのが、この『大無量寿経』という經典だと、こう言われているんです。こりゃ、がんばらないかんわ。そりゃあ『大無量寿経』の話をするんだから、がんばらなあかん。

出来の悪い弟子

『大無量寿経』の話をする前に、この二つの經典の性格を言っておきますね。やっぱり今日は勉強して帰ってください。大学院クラスの勉強してね。

『法華経』という經典は、お釈迦さまが誰に説かれたか知っとる？名前（しやりほつ）聞いたら知っとるわ。それは、舍利弗です。この舍利弗という人は、仏弟子の中で一番勝れた人でした。僕のような、こんなぼうっとしたのと違う、もっと勝れた人でした。

では『大無量寿経』は、誰に説かれたか知っとる？えっ、阿難？そうそう、よう知っとるねえ。阿難、阿難に説かれた。ところが、この阿難という人は仏弟子の中でも一番出来が悪かった人。阿難はお釈迦さまのそばで、一生懸命にお釈迦さまの世話をした人や。たとえば『維摩経』という

經典に、こんな話がある。阿難がね、お釈迦さまの世話を一生懸命しとる。ご飯の世話したり、体の世話をしたりすんのや。そしたらある日の朝、阿難がワーンと走り回るとる。

それで維摩という人が「おい阿難、お前どうしたんや」て聞いたら「いま、牛乳を買いに行くんや」「何でや」て言ったら、「お釈迦さまが病氣や。だから牛乳持ってきて、お飲みいただいて、お釈迦さまに元気になってもらわないかん」て言って、牛乳買いに行くんや。

そしたら維摩という人が、この人はものすごく偉い人や。「お前、何を考えとるんや」って。「お釈迦さま、仏身は病氣しない。悟りを覚ったお釈迦さまは、本当は病氣になれへんのや。それがあえて病氣された姿をとって何を教えているのかわかるとるんか」と怒られる。

お釈迦さまは覚った人やから病氣をしない。だけど私たちと同じ体をもって、あえて病氣したということは、病氣してもその病氣にとらわれない。「少しも病氣を苦にされないで、病氣の中にあっついても晴れ晴れとした顔をされる。そして仏教というものがどういう教えかということ、つまり、生老病死の苦を超えるもの。そういうことを僕たちに教えとるんだ」と言って、阿難は怒られます。

それでも阿難は「そんなことを言っても病氣や」と言って、牛乳を買いに行つて、そして一生懸命お給仕するんですね。阿難という人は、ものすごく優しい人や。だけど、仏教が分っているか、分かってないかということ、お釈迦さまが生きていた間、悟りを開けなかった人なんですね。最後まで悟りを開けなかった人。

エリート（えりーと）の弟子

ところが舍利弗は、仏弟子

の中で一番勝（すぐ）れた人です。この『法華経』という經典は、ある日ねお釈迦さまはこう言われるんです。「今まで説いてきたのは、あれは方便だ」と、「本当は一乗だ」と。一乗ってわかりますか。これは仏教の悟りはどんな人も漏らさない、そういう広やかな仏教の悟りの名前なんです。

だから今までお釈迦さまは、三乗というものを説いてこられた。本当は一乗の悟りが、一番大事なんだと。だから、今までは方便であったというんですよ。そうしたら、皆、怒ったんや。聞いてた人たちが、菩薩たちが怒ったんや。「ほんだら、今までは何やっつたんや。私たちは一生懸命聞いてきたのに。今まで聞いてきたから悟りを開いているのに、私のことどうしてくれるんや」悟りを開いている人たちが、その場からざあっと出ていきます。

あと何人しか残りません。舍利弗と、あと数人しか残らん。それで、その舍利弗が「お願いだからお釈迦さま、仏教を説いてください。その一乗の法を説いてください」

するとお釈迦さまは「もう、説いても分からんから、やめた」舍利弗は「そんなこと言わんと、お願いやから」と、三回たのみます。そしたらお釈迦さまは、三回目に一乗の法を説きだされる。仏の顔も三度っていうのはここからきているんです。

お釈迦さまは、經典の中で必ず三回、だからこの『法華経』も、三止三請という、頼んだのに「説かん、説いてもわからん」と言って説かれなかった。三回目にやっと、「それでは」と、説かれだす。

ところがそれを聞いた人は、ほんのちょっとだけ。あとの人たちはみな出て行ってしまった。だから仏弟子の中でも本当に優れた人だけが、エリートだけが聞いた教え。それが『法華経』ですね。何人しか聞いていない。(つづく)



東本願寺